



稲作情報



JA秋田ふるさと 営農経済部 米穀課 ☎ 23-6556
 各営農センター
 金沢 ☎ 37-2124 大雄 ☎ 52-3665 横手 ☎ 32-8220 増田 ☎ 45-2035
 平鹿 ☎ 24-3110 十文字 ☎ 44-3101 大森 ☎ 26-4155 雄物川 ☎ 22-2266
 秋田県農業共済組合横手市支所 ☎ 32-4150
 農産課(農作・畑作・損防) ☎ 32-4404 家畜果樹園芸課(家畜・果樹・園芸) ☎ 32-4407
 建物農機具課(建物・農機具) ☎ 32-4119 収入保険課(収入保険) ☎ 32-4229
 秋田県平鹿地域振興局 農林部 農業振興普及課 ☎ 32-1805
 横手市農林部 農業振興課 ☎ 32-2112・32-2113

ゆとりを持って、計画的な田植え作業を!!

＝ 保温的水管理で、活着促進と初期生育の確保 ＝

いよいよ本田作業に入ります。ゆとりを持って計画的な田植え作業と保温的水管理で、活着促進と初期生育の確保に努めましょう。

ふるさと稲作ほっとLINE QRコード
友だち登録お願いします!



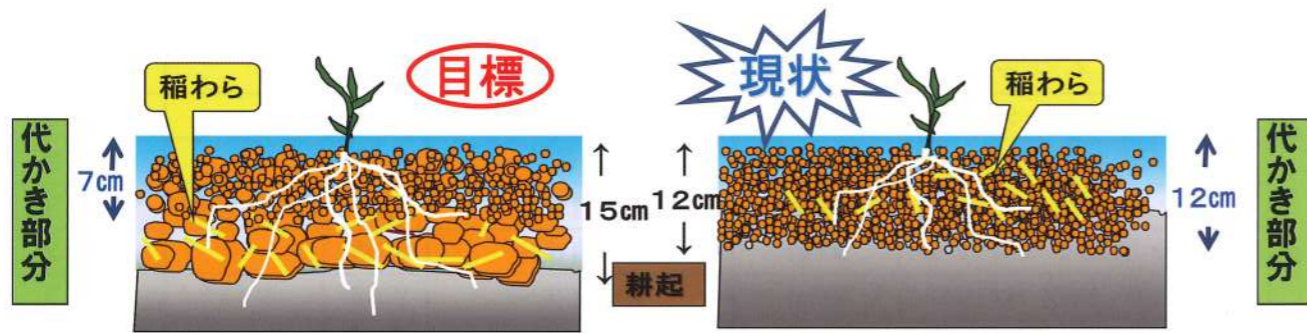
1. 代かき作業

代かき作業は、田植えの前に耕起した水田に水を入れて行う碎土均平作業です。できるだけ浅水状態にして作業を行い、田面に高低差が生じないように行いましょう。

*水量が多すぎる場合、圃場の均平がわかりにくいため作業がうまくいきません。また、わら・稲株等のすき込みが難しくなります。

*鏡のような過度の代かきは作土全体が泥状になり、土壌還元の促進や表層剥離の原因となります。作土の下部は軽く土塊が残るくらいに仕上げましょう。

◆根を深く張らせる環境づくり



目標→耕起は耕深を確保し整地代かきは深くしない 現状→浅く耕起し深く代かきしてしまっている

2. 田植え・栽植密度

安定した収量・品質を得るには、目標茎数を早期に確保することが大切です。

近年管内の栽植密度は、全体的に「疎植」の傾向にあります。「あきたこまち」は穂数型の品種です。「疎植」にしてしまうと、穂数を確保できず収量低下の要因となります。安定した収量を確保するためには**70株/坪の栽植密度が理想**です。高地力田や側条施肥等で初期生育を確保しやすい圃場は、50~60株/坪でも対応できますが、萌えみのり等の晩性品種は50株では登熟が遅れるため、60~70株をお勧めします。

*低温・強風の日に田植えを行うと植え傷みを起こし、活着や初期生育の遅れにつながります。

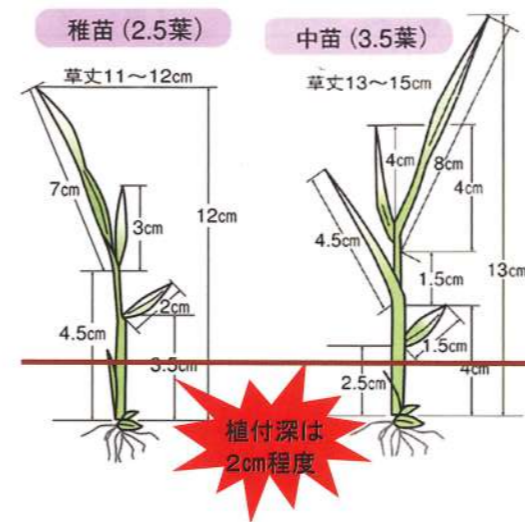
*田植えは最高気温20℃前後の温暖な日に行ない、15℃以下の肌寒い日や強風の日は避けて、天気回復を待ちましょう。

(図：食味ランクアップマニュアルより引用)

*田植え後の圃場を見ると、株当たり植え込み本数が多い傾向が見られます。植え込み本数が多いと初期分けつが抑制されますので、**植え込み本数中苗で平均3~4本/株、稚苗で平均4~5本/株**となるよう調整しましょう。

(田植え作業スタート時に実際に植え込まれた本数を確認しましょう。)

*植え付け深さは、活着・分けつに影響します。極端な浅植えは浮き苗や除草剤の薬害が起きやすく、また深植えは分けつを抑制しますので、**植え付け深さは2cm程度**としましょう。



植込株数/坪 株/m ² 株間 (cm)	50株/坪 15.2株/m ² 21cm	60株/坪 18.2株/m ² 18cm	70株/坪 21.2株/m ² 15cm
①目標穂数：380~440本/m ² 必要1株穂数	25~30本/株	21~25本/株	18~21本/株
②目標総粒数：28~31千粒/m ² 粒数確保の難易度	難 穂数不足	←	→ 易 穂数確保
③株数を多くすると大粒傾向 千粒重確保の難易度	やや難 1穂粒数多すぎ	←	→ 易 適正粒数確保
④基肥窒素量 (kg/10a) 穂数確保の難易度	基肥N-5	難 穂数不足	→ 易 穂数確保
	基肥N-7	易	→ 易 倒伏注意

栽植密度 70 株/坪が穂数・粒数確保が楽で、大粒傾向にしやすい

3. 田植え後本田水管理

苗の生育状態や気象条件を考慮し、最適な水管理を行いましょう。

*活着するまで水深4~5cm程度の水深(苗がくぐらない程度の湛水)を保ち、発根・活着(保温的水管理)を促進します。

*活着を確認したら分けつを促進するため、日中浅水(2~3cm)として止水し夜間にかん水を行います。また、水の冷たいところでは、温水チューブを利用して水温の上昇に努めましょう。

4. 苗いもち対策

水田に放置された補植苗は葉いもちの伝染源となります。

周囲の迷惑となりますので、補植は田植え後早めに行い、畦畔・本田等へ放置せず、直ちに埋没処分しましょう。 [葉いもちの発生源]



◆ カメムシ対策 ◆

雑草地は、カメムシ類の生息地と繁殖地になります。管内の主要となっているアカスジカスミカメムシは卵で越冬し、6月上旬頃からふ化しはじめることから、ふ化前に草刈りを実施することで発生密度を低下させることが可能です。畦畔・農道や転作圃場では、5月頃から計画的に草刈りや耕耘・除草剤散布等の雑草対策を徹底し、カメムシの密度抑制に努めましょう!!非選択性除草剤散布の際は、水稻や周辺作物に飛散しないよう注意してください。

5. いもち病・初期害虫防除薬剤

近年、1箱当たりの薬剤の量を減らして「いもち病」の発生するケースが多くなっています。
安定した効果・持続となるよう下記薬剤50g/箱、均一散布に努めましょう。

薬剤名	対象病虫害名	散布量	使用時期	使用回数	成分数
Dr. オリゼ箱粒剤	いもち病	50g/箱	緑化期～移植当日	1回	1
パディート箱粒剤	イネミズゾウムシ ドロオウムシ・イネアオムシ・ イナゴ類	50g/箱	播種(覆土前)～移植当日	1回	1
デジタルミネクト箱粒剤	薬いもち～穂いもち 初期害虫・イナゴ類	50g/箱	移植3日前～移植当日	1回	2
ルーチンバンナ箱粒剤 (特別栽培米使用可)	いもち病・イネミズゾウムシ ドロオウムシ・イネアオムシ・ イナゴ類	50g/箱	播種(覆土前)～移植当日	1回	2
Dr. オリゼパディート粒剤		50g/箱	緑化期～移植当日	1回	2
デジタルメガフレア箱粒剤	薬いもち～穂いもち 初期害虫・カメムシ類	50g/箱	移植3日前～移植当日	1回	2
ルーチンアドスピノGT箱粒剤	いもち病・イネミズゾウムシ ドロオウムシ・イネアオムシ・ 紋枯病	50g/箱	移植2日前～移植当日	1回	3

6. 雑草防除

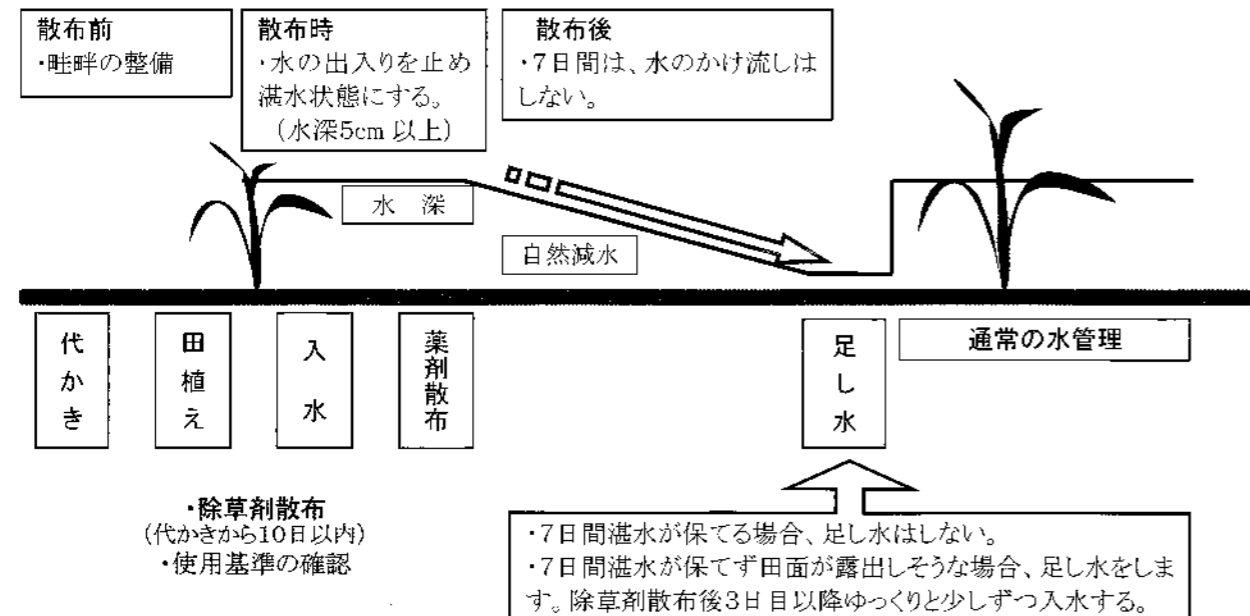
除草剤の効果が高めるためには、圃場の水持ちはもちろん散布時期や散布後の水管理も重要となります。

雑草の生育は代かき終了後から始まり、10日後にはヒエ2葉、12日後にはホタルイ2葉になります。代かきから出植えまでの日数が長くないようにしましょう。また、田植えが1週間以上かかる場合は、田植えの途中で除草剤散布日を設け、計画的に作業しましょう。

* 粒剤は均一散布を心がけ、散布ムラや重複散布がないようにしましょう。

* カナ・表層剥離・藻類の発生は除草剤の拡散を妨げますので、発生前に散布しましょう。

★ 除草剤散布と水管理のポイント ★



除草剤散布前の水深は、田面の高い所で5cm以上確保する。足し水はできるだけ静かに入れる。また、通常の水管理に入ってから田面を露出させない。除草剤の残効を長く保つためには、水を切らさず湛水管理を継続すること。田面の露出した場所は一発除草剤の処理層が壊れ、残草が多くなる。

◆主な水稲初期及び初・中期一発除草剤(「ふるさとecoらいす」は、初期剤は田植前に使用できません。)

区分	除草剤名	散布量・薬量 (10a)	使用時期	ノビエ 効果	使用ポイント	直播 登録	成分 数		
初期剤	ソルネット粒剤	1kg	移植時～	1.0葉	初中期一発剤 と体系処理(特別 栽培米は使用 できません。) ※サキホコレはソ ルネット又はエ リジャンを使用 できます。		1		
	エリジャンジャンボ・乳剤	300g/300ml	移植直後～	1.0葉			1		
	※前作と品種が異なる場合は必ず使用(漏生苗対策)								
初 中 期	メテオ粒剤	1kg	移植時～	1.0葉		○	1		
	ピラクロン粒剤	1kg	移植時～	1.5葉		○	1		
	豆 つぶ	ガンガン豆つぶ250	250g	移植後3日～	2.5葉		○	2	
		ベンケイ豆つぶ250	250g	移植後3日～	2.5葉		○	3	
		キマリテ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	2	
	粒 剤	ボデーガード粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	2	
		クサトリーBSX粒剤	1kg	移植時～	2.5葉		○	3	
		カイリキZ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	3	
		シグナス粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	3	
		ゼータタイガー粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	3	
		アッパレZ粒剤	1kg	移植時～	3.0葉		○	3	
		カウントダウン粒剤	1kg	移植時～	3.5葉	特別栽培米使用可	○	3	
		発 芽 期	キマリテジャンボ	300g	移植直後～	3.0葉		○	2
			ガンガンジャンボ	250g	移植後3日～	2.5葉		○	2
	クサトリーBSXジャンボ		300g	移植後1日～	2.5葉		○	3	
カイリキZジャンボ	300g		移植後3日～	3.0葉		○	3		
ベンケイジャンボ	250g		移植後3日～	3.0葉		○	3		
ゼータタイガージャンボ	300g		移植後3日～	3.0葉		○	3		
アッパレZジャンボ	400g		移植後3日～	3.0葉		○	3		
カウントダウンジャンボ	400g		移植直後～	3.0葉	特別栽培米使用可	○	3		
フ ロ ア ブ ル 剤	キマリテフロアブル		500ml	移植直後～	3.0葉		○	2	
	クサトリーBSXフロアブル	500ml	移植直後～	2.5葉		○	3		
	カイリキZフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉		○	3		
	アッパレZフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉		○	3		
	ゼータタイガーフロアブル	500ml	移植後3日～	3.0葉		○	3		
	カウントダウンフロアブル	500ml	移植直後～	3.5葉	特別栽培米使用可	○	3		

★水田内雑草をなくすことがカメムシ防除に直結します！★

- ・ヒエ・ホタルイが水田内に残ってしまうと、カメムシの繁殖場所となります。
- ・特にアカスジカスミカメムシは、ヒエ・ホタルイの穂に産卵・増殖します。登熟後期におけるカメムシの加害による斑点米被害の増加が心配されるため、**残草圃場は出穂期10日後頃のスタークル剤と出穂期24日頃のキラップ剤の2回本田防除が必須**となります。
- ・適期使用・切らさない水管理による初中期一発除草剤の効果発揮で、残草をなくしてカメムシを寄せ付けないようにしましょう。
- ・初中期一発除草剤使用後の残草が見られたら、トドメやバサグラン等中後期除草剤を適期に使用しましょう。